

ドッジボール ルール冊子



田辺市子どもクラブ育成協議会

西牟婁地方子ども会連絡会 ドッジボール大会試合ルール

令和 5 年度

1. 選手構成

ドッジボール（男女混合）

- ①選手の参加登録は16名以内とする。
- ②競技者は小学生の男女混合8名で行う。
- ③責任者は大人であること。（2名以内）
- ④チームにはキャプテンを1名おくこと。

【責任者（監督、指導者）2名以内、小学生男女混合 8名、交代選手 8名以内】

*但し、コート内に男女1名以上各チームに入っていること。

2. 実施規則

（1）試合球（令和元年度より最新モデルに変更しています。）

日本バレーボール協会制定ソフトバレーボール

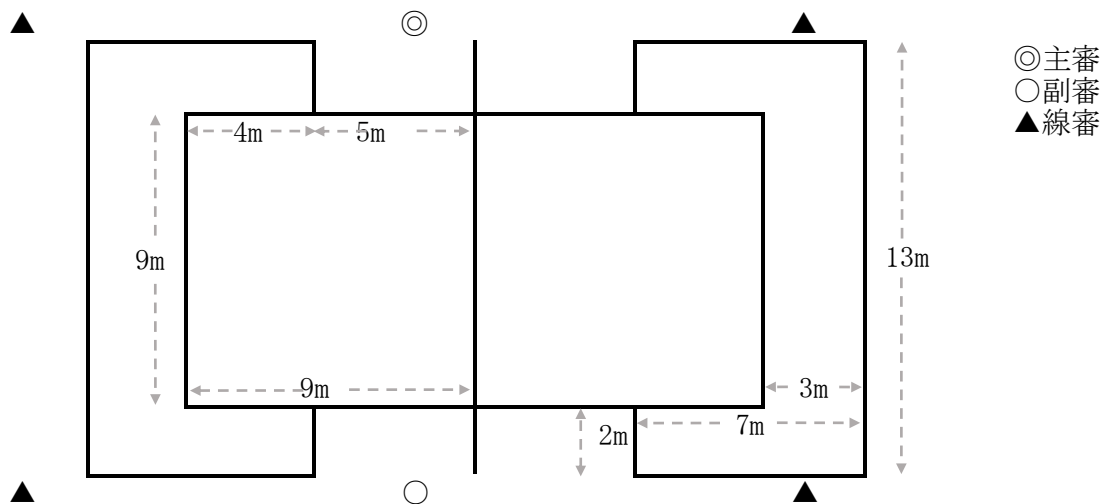
ミニの部試合球（円周64±1cm）MIKASA ソフトバレーボール

最新モデル 記号 MS-N64H



（2）試合コート コートの大きさは下図のとおりとする。

（但し、会場により若干の変更もあり得る。）



このコートは、成人用6人制バレーボールコートの周りに、前後幅3m両翼幅2mの外野をとったもの。

（3）元外野

- ・元外野は1名以上とする。
- ・元外野も相手の内野の選手をアウトにしなければ自分の内野に戻れない。

（4）ジャンプボール

- ・試合はジャンプボールで始まる。
- ・ジャンパーへの内野からの第1投の攻撃は禁止とする。

（5）抗議

・審判に抗議はできません。審判が下した判定に必ず従ってください。

(6) 攻撃とアウト・セーフ

- ・相手のノーバウンドの投球を取れない場合と、当てられた場合にアウトになる。
- ・一回のノーバウンドの投球で2名以上あたった場合は、最初の1名がアウトになる。
- ・一度味方に当たったボールを、ノーバウンドで取った場合は、その当たった選手はセーフとする。
- ・顔や頭にボールが当たった場合はセーフ。
- ・相手が投球したときにファールがあった場合、当たってもセーフとなる。

(7) 試合中の内外野への移動

- ・内外野への移動はコートの外を通る。
- ・内外野への移動は審判の後ろを通る。(※守れない場合は「注意」を与えます。)

(8) ボールデッドとボールの支配権

- ・試合中、コート（内外野）の外にボールが出た時、ボールデッドとなる。
- ・ボールデッドになった時、そのボールは、最後にさわったのが内野の選手の場合、相手の内野ボールになる。
- ・ボールデッドになった時、そのボールは、最後にさわったのが外野の選手の場合、自分の外野ボールになる（ワンタッチ）。ただし、外野が投げたボールが直接ボールデッドになった場合は、相手の内野ボールとなる。
- ・笛が鳴ってから取りに行く。笛が鳴る前に取りに行ったらファール。

【ワンタッチの成立条件】

- ①手のひらで触れた場合のみ成立する。
- ②ワンタッチしたあと、ボールデッドになったとき（デッドゾーンへ落ちたとき、または壁に当たったとき）に成立する。

【ワンタッチが成立しないとき】

- ①手のひらで触れた後、または身体正面に飛んでくるボールを捕球体制で捕球した後、身体の他の部位にボールが当たってデッドボールになったとき。
- ②外野選手がワンタッチした状態でインプレーゾーン内を転がっているボールを再度、当該選手、またはその他の選手がキャッチし損ねてボールデッドとなったときはファールとみなし、相手の内野ボールとする（いわゆるツータッチ）。
- ③転がっているボールを故意に外に出した場合は、ワンタッチではなくボールデッドとみなし、相手ボールとする。

(9) 外野からのプレーの再開

- ・ワンタッチなどで外野の外からボールを取ってプレーを再開するときは一度、外野の中に入って、ボールを頭の上に上げてからプレーを再開する。
(外野の外から助走をつけて投げるのは禁止。)

(10) 内野復帰の放棄

- ・外野の選手が相手の内野をアウトにしても、次の場合は自分の内野に帰れない。
 - ①アウトを取ってから、外野の中でボールにさわった時。
 - ②アウトを取ってから、すぐに自分の内野に帰らなかった時。

(11) ファールとボールの支配権

①オーバーラインスロー

ボールを投げる時ラインを踏んではならない。相手の内野ボールとなる。

②オーバーラインキャッチ

ボールを取る時ラインを踏んではならない。相手の内野または外野ボールとなる。

③ダブルタッチ

・アウトになったプレイヤーが、外野への移動中に自コート内で再びボールに触れてはならない。相手の内野ボールになる。

・当たったボールにはいかなる場合も触らない。

ただし、両足とも一歩も動かず、ボールの方向も変わらないようなかたちで、体にボールが触れた場合は審判の判断とする。当たった子が故意でなければダブルタッチを取らない。故意かどうかは審判の判断にゆだねる。

・外野移動中に味方のボールに当たって、ボールが自らのコートにあればそのまま続ける。

④ホールディング

相手のコートに転がっているボールをかき寄せてはならない（空中はOK）。

ボールのあったところのボールとなる。

⑤キープ・フォ・ファイブ（＝5秒ルール）

ボールを取ってから5秒以内に投げなければならない。相手の内野ボールとなる。

⑥タッチ・ザ・ボディ

試合中、わざと相手の選手に触れてはならない。相手の内野または外野ボールとなる。

⑦W（ダブル）内野パス・W（ダブル）外野パス

・内野同士、外野同士のパスは禁止。相手の内野ボールとなる。

・プレーが再開されるまで（静止しボールを頭上に挙げて、審判が再開の笛を吹くまで）は、W（ダブル）パスルールは適用されない。

・投げ損ねたボールを他の子がとって投げててもファールはとらない。

ただし、その行為を故意に行ったと主審が判断した時にはファールをとる。

⑧ヘッドアタック

相手の頭や顔を攻撃してはならない。ヘッドアタック（首から上）は、全てセーフとし、アタックを受けた選手のボールで再開する。

⑨フェイス・トゥ・ボール

サッカーのヘディングをしてはならない。相手の内野または外野ボールとなる。

⑩その他

・バレーのレシーブ、トスをしてボールを取ってはならない。

・足を使ってボールを止めてはならない。相手の内野または外野ボールとなる。

・外野手がボールを保持した状態で、明らかに意図的にコートの角を飛び越している場合はファールとする。

・ボールを保持してから投げるまでの間に（勢いをつけるためなどで）、ドリブルをするとファールとする。

・かきこんだボールを自分で取ればOK、他の人が取るとファール

・既にアウトになった選手が外野への移動中に再度アタックを受けた場合、アタックを受けた選手のファールとし、アタックを行ったチームのボールで試合を再開する。

(12) 時間制の特別ルール

・5アタックルール

パスは4回まで、5回目には攻撃をしなければならない。相手の内野ボールとなる。

・アタックは、両手を広げた、肩より低いところを通過するボールとする。外野同士であっても、審判がアタックボールと判断した場合は、W（ダブル）外野パスとはならない。

- ・試合終了と同時に投げたボールは有効。

(13) プレイ中に負傷した選手は監督の判断により、プレイ続行が不可能な時はベンチに下げる。負傷者はそのセットは復帰できない。ただし、次のセットからは試合開始からプレイできる。

(14) 審判の指示に従わない場合はペナルティを与える。

3. 試合方法

- ・競技は3ゲームで行い次のとおりとする。
- 審判の「プレイ」の宣告によって始まり、「ゲームセット」の宣告によって終了する。
- 1ゲーム目と3ゲーム目のコートは、キャプテンのじゃんけんにより決定する。
- 1ゲーム終了後コートを交代する。（作戦タイムは1分）
- 1ゲーム5分間とし、3ゲーム行う。2ゲーム先取したチームを勝ちとする。
- ※なお、ゲーム終了時に内野の人数が同数の場合には、延長特別ルールで勝敗を決する。
（延長特別ルール：ゲームの終了時のままの状態からジャンプボールでゲームを再開し最初にアウトを取った時点で試合終了とする。）

【3位決定戦・決勝トーナメントについて】

- ・3位決定戦・決勝戦はBコートで行う。

4. その他の注意事項

- (1) 子どもの体力と心理を十分考慮し、あくまでも子どものペースで行い、安全で教育的な親善大会とする。
- (2) ベンチは選手、監督、コーチ1名が入り、それ以上は入ってはならない。
- (3) 試合中自チームの応援はよいが、相手チームへのヤジなどについては、監督または、責任者は十分注意すること。
- (4) 試合中にくつひもがほどけた場合は、主審または副審にアピールしてから、コートの外に出てくつひもを結び、速やかにコート内に戻る。
- (5) ボールをひねって投げる。
(強く握って（掴んで）投げた場合、無回転ボールを投げた場合について)
 - ・ボールが変形するような強い握り方や掴み方でボールを投げた場合、また無回転ボールを投げた場合は、主審が該当選手及び監督・コーチに注意する。ただし、握り方（掴み方）が著しいと主審が判断した場合は即ファウルとする。
 - ・その後においても同様のボールを投げた場合はファールスローとし、アタックを受けた選手がボールをキャッチした場合は、アドバンテージとしてプレーは続行する。
 - ・強く握って（掴んで）投げた場合や無回転ボールは、予測できない変化をすることがあり不意なけが等を引き起こす可能性があることからその行為を禁止するよう、日常練習の段階から指導を徹底する。
- (6) 両手投げについては、基本的には反則をとらない。

(7) 内野選手がコート内を移動する(逃げる)とき、内野コートを出てしまう場合は指導を行い、あまりにも続くようであればファールとする(同じ人の3回目はファール)。

(8) 監督・コーチのゾーンをひく。

(9) 審判について

- ・主審は全てのことについて権限を持つ。
- ・外野選手のワンタッチ判定について、線審の判定より主審の判定を優先する。
- ・副審は、5パスのカウントおよびジャッジを行う。
- ・線審は、「オーバーラインスロー・オーバーラインキャッチ」と「ワンタッチの有無」のみをジャッジする。
「オーバーラインスロー・オーバーラインキャッチ」は笛を鳴らす。
「ワンタッチ」は笛を鳴らさない。
- ・審判のジャッジに時間がかかった場合などは、ダブルタッチはとらない。

(10) ジャンプボールについて

- ・主審は、子どもがジャンプできる高さまでボールを投げる。
- ・開始の笛は、ボールが最高到達点に達したときに鳴らす。
- ・笛の前にボールに触れたらやり直し。

(11) サドンデスで外野選手がアタック成功した場合は内野へ戻ることができる。

- ・主審が内野人数のカウントを開始する前に速やかに内野に戻ること。
- ・主審・副審による人数確認作業が新たに発生する。